

教育学科

教育学認定心理士コース

2年生

2025年度前期

(実技)		科目名:音楽実技ⅠC		講師: 樋上 莊一	
科目概要・目標	音楽の基礎的知識を正しく身につけることを目指す。				
	1.楽譜に関する基本的知識を正確に身につけ、楽譜を読む能力を養う。				
	2. バイエルを中心として、保育活動に必要なピアノ演奏技能を、初歩から学ぶ。				
	2. 幼児歌曲の指導能力を身に付けるため、歌うことなど、基礎技能に習熟するための準備を始める				
教科書		*標準バイエルピアノ教則本 *こどものうた名曲アルバム			
試験	中間	第1回	バイエル No.55, 60		*楽譜は見てよい
		第2回	バイエル No.65, 66		
		第3回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)		
		第4回	伴奏付け(コード伴奏/2曲準備する)		
	期末	第1回	バイエル(暗譜) No.75		*暗譜演奏。
		第2回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)		
回数		授業内容と、練習及び合格目標			
第1回		*ガイダンス (楽器の扱い方、授業の進め方の確認)			
第2回		*バイエル No.55, 60 *幼児歌曲			
第3回		*バイエル No.55, 60 *幼児歌曲			
第4回					
第5回		第1回中間テスト (バイエル No.55, 60)			
第6回					
第7回		*バイエル No.65, , 66 *幼児歌曲			
第8回					
第9回		*バイエル No.65, , 66 *幼児歌曲			
第10回					
第11回		第2回中間テスト(バイエル No.65, 66) *幼児歌曲 *バイエル NO. 73			
第12回					
第13回		*幼児歌曲 *バイエル NO. 73			
第14回					
第15回		*コードネームについて *幼児歌曲			
第16回					
第17回		第3回中間テスト(幼児歌曲 2曲)			
第18回					
第19回		*コードネームについて *幼児歌曲			
第20回					
第21回		*コードネームについて *幼児歌曲			
第22回					
第23回		第4回中間テスト(コード伴奏 2曲) *バイエル No.75			
第24回					
第25回		*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)			
第26回					
第27回		*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)			
第28回					
第29回		*第1回 期末試験 (バイエル No.75)			
第30回					
第31回		*第2回 期末試験 (幼児歌曲 2曲)			
第32回					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	中間テスト	20点	4(5－1)点×2(バイエル), 5点×2(幼児歌曲)		
	期末試験	20点	8(10－2)点(バイエル), 10点(幼児歌曲 2曲)		
	配点曲	30点	14点 バイエル:(2点×4) 55, 60, 65, 75 / (3点×2) 66, 73 16点 (2点×8) 幼児歌曲 5曲 / 伴奏付け(コード伴奏)3曲		
備考		大学スクーリング修了試験課題:No.18, 19, 40, 49, 52			

2025年度前期

科目名：音楽実技 I C(A群:初心者)		講師：樋上 荘一		
科目概要・目標	音楽の基礎的知識を正しく身につけることを目指す。			
	1.楽譜に関する基本的知識を正確に身につけ、楽譜を読む能力を養う。			
	2. バイエルを中心として、保育活動に必要なピアノ演奏技能を、初歩から学ぶ。			
	2. 幼児歌曲の指導能力を身に付けるため、歌うことなど、基礎技能に習熟するための準備を始める			
教科書		＊標準バイエルピアノ教則本 ＊こどものうた名曲アルバム		
試験	中	第1回	バイエル No.80, 83	＊楽譜は見てよい
		第2回	バイエル No.88, 94	
		第3回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)	
		第4回	伴奏付け(コード伴奏/2曲準備する)	
	期末	第1回	バイエル(暗譜) No.91	＊暗譜演奏。
		第2回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)	
回数		授業内容と、練習及び合格目標		
第1回		＊ガイダンス (楽器の扱い方、授業の進め方の確認)		
第2回		＊バイエル No.80, 83 ＊幼児歌曲		
第3回		＊バイエル No.80, 82, 83 ＊幼児歌曲		
第4回				
第5回		＊第1回中間テスト (バイエル No. 80, 83) ＊バイエル No.88		
第6回				
第7回		＊バイエル No.88, 94 ＊幼児歌曲		
第8回				
第9回		＊バイエル No.88, 94 ＊幼児歌曲		
第10回				
第11回		＊第2回中間テスト(バイエル No.88, 94) ＊幼児歌曲 ＊バイエル No.82		
第12回				
第13回		＊幼児歌曲		
第14回				
第15回		＊コードネームについて ＊幼児歌曲		
第16回				
第17回		＊第3回中間テスト(幼児歌曲 2曲)		
第18回				
第19回		＊コードネームについて ＊幼児歌曲		
第20回				
第21回		＊コードネームについて ＊幼児歌曲		
第22回				
第23回		＊第4回中間テスト(コード伴奏 2曲) ＊バイエル No.75		
第24回				
第25回		＊期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)		
第26回				
第27回		＊期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)		
第28回				
第29回		＊第1回 期末試験 (バイエル No.91)		
第30回				
第31回		＊第2回 期末試験 (幼児歌曲 2曲)		
第32回				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	中間テスト	20点	5点×2 (バイエル), 5点×2(幼児歌曲)	
	期末試験	20点	10点(バイエル) 10点(幼児歌曲 2曲)	
	配点曲	30点	14点 バイエル : (2点×4) 83, 88, 91, 94 / (3点×2) 80, 82 16点(2点×8) 幼児歌曲 5曲 / 伴奏付け(コード伴奏) 3曲	
備考		大学スクーリング修了試験課題:No.55, 60, 62, 66, 73, 75		

(講義)		科目名:教育法規		講師: 木内 正範	
科目概要・目標	本科目では、幼稚園、小学校、中学校教諭等の教員を目指す人たちが教育法規に関する基礎的な知識を身につけ、教員採用選考試験問題を解けるようになること、そして教員となった折には、その知識を用いて学校における法的な諸課題に対応できるようになることを目標とする。そのために以下の3つの到達目標を設定する。 1) 教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる。 2) 教員や教員採用選考試験受験生にとって必要最低限の教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。 3) 学校におけるさまざまな課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにして説明することができる。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり、特別支援教育にも深く携わってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	教科書	山本豊『第四版 有権解釈に重きを置いた教育法規』学校図書			
提出課題	レポート設題1	教育公務員と一般の地方公務員との服務事項や研修に関する内容を述べよ。その際、同じところと異なるところについて整理して論述せよ。 【ポイント】県庁や市役所に勤務する地方公務員と公立学校に勤務する教育公務員との服務事項と研修の法的根拠(地方公務員法、教育公務員特例法)を比較し、その相違についてまとめる。			
	学修のポイント1	学校教育における教育法規の役割や意義について論述せよ。(P.2)			
	学修のポイント2	公立学校や私立学校における宗教教育や宗教的活動について法はどのように規定しているのか、論述せよ。(P.206 15条 P.218 50条)			
	学修のポイント3	学童児童又は学齢生徒に対しては、懲戒としての停学を行うことはできない。一方、公立の小・中学校では性行不良行為を繰り返すことで他の児童・生徒の教育に妨げがあると認められるときには、出席停止を命ずることができるとの規定がある。それぞれ根拠条文と停学と出席停止の違いを述べよ。また性行不良による出席停止の課題について述べよ。(P.72～74)			
	学修のポイント4	公立小学校の体育の授業である。その水泳指導中、担任の過失によって児童が水死してしまった。この場合、担任はどのような法的責任を負うか。また被害者側の請求を確実に補償するための規定についても論述せよ。(P.166)			
	学修のポイント5	教科書の使用義務と補助教材について法はどのように規定しているか。裁判例にも触れながら論述せよ。(P.54～) (P.58)			
	学修のポイント6	体罰と事実行為としての懲戒について述べよ。体罰を行った公立学校の教職員の法的責任について具体例を挙げて述べよ。(P.80～) (P.72)			
期末試験		設題は、事前に発表します。			
回数		授業内容			
第1回		自己紹介(進路希望等)レポート設題、学修ポイントの対応、第1章「教育法規のしくみと学び方」(P.2)、ディス「4月の学級経営のポイント？」			
第2回		教育基本法(P.8～) ディスカッション「ほめ方、しかり方」			
第3回		学校教育法(P.20～) ディスカッション「学級の人間関係づくり対策？」			
第4回		校長と教諭の職務(P.38～) ディスカッション「朝と帰りの会のポイント？」			
第5回		教育課程の編成(P.50) ディスカッション「宿題の意義と対応」			
第6回		校則(P.66) ディスカッション「安全で楽しい教室環境づくり」			
第7回		教員の服務(P.82～) ディスカッション「保護者からの苦情対応」			
第8回		人権をめぐる動き(P.110) ディスカッション「障害がある子の就学支援は？」			
第9回		人権教育・人権啓発(P.126) ディスカッション「学級懇談会での給食の説明？」			
第10回		特別支援教育と法規(P.134～) ディスカッション「通常の学級における発達障害の子の対応」			
第11回		学校保健・安全と法規(P.150～) ディスカッション「障害がある子への対応？」			
第12回		児童福祉・男女共同参画と法規(P.168～) ディスカッション「保護者との信頼関係づくりをどう進めるか？」			
第13回		生涯学習社会と法規(P.182～) ディスカッション「公平な授業、行事を行うには？」			
第14回		図書館法(P.190～) ディスカッション「教職員集団の人間関係づくり」			
第15回		期末試験: 教科書等持ち込み可 60分間			
第16回		科目終了試験: 教科書等持ち込み不可 60分間			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	課題の意味を理解し、現場の実態を踏まえた私見		
	授業内評価	10点	ディスカッションでの発言内容(私見、具体性、建設的な意見等)		
		20点	授業態度(意欲、質問、意見等)		
20点		提出物(学修ポイント・レポート)			
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:算数		講師: 松村久美子	
科目概要・目標		算数・数学科は、積み重ねの学修であるので、最も習得が難しい教科であることを認識することが必要である。同様に、指導も難しく、指導する段になって初めて、正確で広範な知識習得が必須であることに気づかされる。 この科目を学ぶことにより、指導者が必ず習得しておかなければならない①学習指導要領の重点と概要、②算数・数学科の教育内容と教育方法について高い理解に到達し、初等数学の指導にあたるための基礎を習得することができる。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実際を踏まえた実践的な知識を学ぶ。			
		教科書		①文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編』日本文教出版社 ②土屋修・佐々木隆宏『算数教育の基礎がわかる本』学術図書出版社	
提出課題	レポート設題1	『学習指導要領』における数学的活動について、導入の経緯とその充実や内容に関して述べよ。 ＜ポイント＞数学的活動を通して、主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、どのような点に留意することが必要か考えること。			
	学修のポイント1	第1・2学年での数学的活動を通した学習活動について			
	学修のポイント2	第3～6学年での数学的活動を通した学習活動について			
	学修のポイント3	「数と計算」領域の指導内容について			
	学修のポイント4	「図形」領域の指導内容について			
	学修のポイント5	「測定」(1～3年)、「変化と関係」(4～6年)領域の指導内容について			
	学修のポイント6	「データの活用」領域の指導の内容について			
	期末試験	後日指示			
回数		授業内容			
第1回		小学校学習状況調査の算数問題を解いてみる。算数科の目標①21②10			
第2回		数学的活動①23 73－75 導入の経緯①6－9 ②13－15 領域決め			
第3回		第1学年での数学的活動を通した学習活動について①76－ 96-101			
第4回		第2学年での数学的活動を通した学習活動について①102－ 127-133			
第5回		第3学年での数学的活動を通した学習活動について①134－ 172-178			
第6回		第4学年での数学的活動を通した学習内容について①179－ 224-231			
第7回		第5学年での数学的活動を通した学習活動について①232－ 276-283			
第8回		第6学年での数学的活動を通した学習活動について①284－ 314-321			
第9回		学習活動の見解 ②41-107-144-173-203－			
第10回		「数と計算」領域の指導内容について			
第11回		↓ ①42-49 ②104-105			
第12回		「図形」領域の指導内容について ①50-56 ②142-143			
第13回		「測定」「変化と対応」領域の指導内容について①61-66 ②200-202			
第14回		「データの活用」領域の活動内容について ①67-71 ②229-230			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	教科書等の持ち物 提出物の期限遵守		
		20点	授業態度 発言・発表		
備考		ポイント・レポートでは、学習指導要領を理解し、教科書や小学校教科書から授業方法を学んだ上で、独創的な数学的活動の授業が構想できることを期待します。			

(講義)		科目名:国語(書写を含む)		講師:松村久美子	
科目概要・目標	言語生活	書写を含む国語(日本語)に関する基礎的・基本的知識理解を確かにするとともに、今日の国語国字問題や国語教育及び			
	生活について考える力を育てる。 あわせて、各自の言語生活の向上と世界の言語のひとつとしての認識力を持って母国語としての日本語を尊重し、良くしようとする態度と実践力を養う。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校での教職経験を持ち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実際を踏まえた実践的な知識を学ぶ。				
教科書		金田一春彦『日本語 新版上下』岩波新書			
提出課題	レポート設題1	身近に見られる日本語の表現や理解に関する疑問点・問題点を見つけ、その類例を集めるとともに、その原因と解決法について見解を述べよ。			
		<ポイント>1. 書写を含む国語(日本語)に関して日頃気にしていることを明確にすること 2. 国語に関することについて、母国語、公用語、音声、文字、文法、語彙、文体、方言、敬語、言語施策等広い視点からとらえ考えること。 3. 国語力の向上や日本語の尊重に関して自分なりの実践工夫を大切にすること			
	学修のポイント1	子どもの母国語・国語の習得の諸相について			
	学修のポイント2	日本語の音声に関する基礎的知識と特徴について			
	学修のポイント3	日本語の文法に関する基礎的知識と特徴について			
	学修のポイント4	書写を含む日本語の文字及び表記法に関する基礎的知識と問題点について			
	学修のポイント5	敬語と方言に関する基礎的知識と課題について			
	学修のポイント6	日本語における国語国字問題について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		日本語の特徴 日本語は特異か平凡か 上～85 ひらがな筆順			
第2回		日本語の音声に関する基礎的知識と特徴について 上87-115			
第3回		日本語の音声に関する基礎的知識と特徴について 上116-131			
第4回		日本語の文字及び表記法に関する基礎的知識と問題点 下1-46			
第5回		6年生教材「迷う」 日本語の文法下46-96			
第6回		日本語の文法に関する基礎的知識と特徴について 下97-158			
第7回		日本語の文法に関する基礎的知識と特徴について 下159-263			
第8回		日本語における国語国字問題について			
第9回		問題点・疑問点の解決法			
第10回		敬語と方言に関する基礎的知識と課題について			
第11回		ひらがなの基本 確かめ 子どもの母国語・国語の習得の諸相について ポイント1			
第12回		カタカナの基本(長音など) 正しい表記で書こう、誤用しやすい用語			
第13回		漢字の基本(筆順) 文章の基本的な書き方 重複表現			
第14回		実習令状などの手紙・ハガキの書き方			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	教科書等の持ち物 提出物の期限厳守		
		20点	授業態度 発言・発表		
備考		レポートは学んだことをまとめる設題ではありません。自分で問題点・疑問点を見つけ、授業で学んだことを礎をして、資料を探し、原因や解決法など見解を書きましょう。			

(講義)		科目名:教養基礎講座		講師:室山俊浩・山田哲史	
科目概要・目標	近い将来、教員採用試験で出題される一般教養の試験対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めていてはとても試験には間に合わないことは明白である。したがって時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていきたい。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		社会科学・人文科学①			
第3回		自然科学①			
第4回		社会科学・人文科学②			
第5回		自然科学②			
第6回		社会科学・人文科学③			
第7回		自然科学③			
第8回		社会科学・人文科学④			
第9回		自然科学④			
第10回		社会科学・人文科学⑤			
第11回		自然科学⑤			
第12回		社会科学・人文科学⑥			
第13回		自然科学⑥			
第14回		社会科学・人文科学⑦			
第15回		自然科学⑦			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:理科		講師:奥村一成	
科目概要・目標	理科とは、宇宙がどのようにできて現在の姿になったのか、生命はどのように誕生して進化してきたのか、ということを実験あるいは調査結果をもとに、科学的に検証していく学問である。理科は物理学、化学、生物学、地学に大きく4分野に分けられているが、この授業では明確な境界を定めずに、自然現象について総合的に学んでいく。そして、科学的な目で物事を判断する基礎能力を身につけることを目標とする。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		滝川洋二、石渡正志「中学理科の教科書」 講談社			
提出課題	レポート設題1	自然選択(または自然淘汰)説について述べよ。			
	学修のポイント1	現在の大気は、どのように形成されたか述べよ。			
	学修のポイント2	環境問題が生態系に与える問題について述べよ。			
	学修のポイント3	太陽系における地球型惑星と木星型惑星の成因を述べよ。			
	学修のポイント4	地震は、どうして起こるのか述べよ。			
	学修のポイント5	地球温暖化の原因と対策を述べよ。			
	学修のポイント6	物質を構成している原子は、どのように形成されたか述べよ。			
期末試験		後日授業中に告知する。			
回数		授業内容			
第1回		宇宙誕生			
第2回		科目終了試験対策 学修のポイント1「現在の大気は、どのように形成されたか述べよ。」			
第3回		レポート対策Ⅰ「生命の誕生」			
第4回		レポート対策Ⅱ「生命の進化」			
第5回		レポート対策Ⅲ「動物・植物の分化と違い」			
第6回		レポート対策Ⅳ「動物と植物の進化」			
第7回		レポート対策Ⅴ「進化論」			
第8回		レポート作成(下書き)			
第9回		科目終了試験対策 学修のポイント2「環境問題が生態系に与える問題について述べよ。」			
第10回		科目終了試験対策 学修のポイント5「地球温暖化の原因と対策を述べよ。」			
第11回		科目終了試験対策 学修のポイント4「地震はどうして起こるのか述べよ。」			
第12回		科目終了試験対策 学修のポイント6「物質を構成している原子は、どのように形成されたか述べよ。」			
第13回		科目終了試験対策 学修のポイント3「太陽系における地球型惑星と木星型惑星の成因を述べよ。」			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み不可 授業内容の一問一答形式		
	授業内評価	20点	課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は、減点。)		
		20点	誠実で積極的な授業態度を重視		
備考		1 限目の授業ですが、レポートや学修のポイントの提出期限を守り、無遅刻・無欠席で頑張りぬいてください。			

(講義)		科目名:一般教養対策講座Ⅰ		講師:室山 俊浩・山田 哲史	
科目概要・目標	近い将来、就職試験に臨むことを前提にして、民間企業で出題される一般教養(常識)をはじめ、公務員試験や教員採用試験で出題される一般教養の試験への対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めていてはとても試験には間に合わないことは明白である。2年生や3年生のうちに時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていくことが大切である。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		社会科学・人文科学①			
第3回		数的推理・判断推理①			
第4回		社会科学・人文科学②			
第5回		社会科学・人文科学③			
第6回		数的推理・判断推理②			
第7回		社会科学・人文科学④			
第8回		社会科学・人文科学⑤			
第9回		数的推理・判断推理③			
第10回		社会科学・人文科学⑥			
第11回		社会科学・人文科学⑦			
第12回		数的推理・判断推理④			
第13回		社会科学・人文科学⑧			
第14回		社会科学・人文科学⑨			
第15回		社会科学・人文科学⑩			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

2025年度 前期

(講義)	科目名： 社会		講師： 山田 哲史	
科目概要・目標	小学校社会科の目標と内容について、小学校学習指導要領解説・社会編を基にして学修し、理解を深める。特に、今回の学習指導要領の改訂における小学校社会科の改訂のねらいと社会科の目標及び各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に学修する。また、学び方や調べ方を身につける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学学習のあり方について学修する。			
教科書		文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』 東洋館出版。		
レポート	設題 1	小学校学習指導要領社会の目標・内容の具体化を図る視点・方法について、教科書を根拠にしながら具体的に述べよ。		
	<ポイント>	小学校社会科の目標・内容が具体化される場合は授業である。そこで、学習指導要領に示された各学年の目標・内容のうち、どれか一つを取り上げ、その内容について児童が興味・関心をもって主体的に取り組めるようにするための内容の具体化について述べる。特に内容の具体化を図る教材研究の仕方や、具体化した教材の作成・提示について着目したい。科目終了試験の各ポイントについて学修を進めた上で、レポート作成にとりかかると、より理解しやすい。		
提出課題	学修のポイント1	小学校社会科の目標の特色と学年の目標の構造及び系統について		
	学修のポイント2	小学校3年生の目標と内容の特色について		
	学修のポイント3	小学校4年生の目標と内容の特色について		
	学修のポイント4	小学校5年生の目標と内容の特色について		
	学修のポイント5	小学校6年生の目標と内容の特色について		
	学修のポイント6	指導計画の作成と内容の取扱いについて		
期末試験		(授業時に指示します。)		
授業計画	回数	授業内容		
	第 1 回	小学校社会科の目標の特色について		
	第 2 回	小学校社会科の学年の目標の構造及び系統について		
	第 3 回	指導計画の作成について		
	第 4 回	内容の取扱いについて		
	第 5 回	児童が興味・関心をもって主体的に取り組むための内容を考える		
	第 6 回	小学校6年生の目標と内容の特色について		
	第 7 回	6学年の国際社会と日本の学習について		
	第 8 回	小学校4年生の目標と内容の特色について		
	第 9 回	小学校3年生の目標と内容の特色について		
	第 10 回	3・4学年の地域学習について		
	第 11 回	小学校5年生の目標と内容の特色について		
	第 12 回	5学年の国土学習について		
	第 13 回	5学年の産業学習について		
	第 14 回	社会科の学習に期待されていること		
	第 15 回	期末試験		
	第 16 回	科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	30点	持ち込み許可物件:授業時に配布の資料、指定の教科書、自筆のノート	
	授業内評価	20点	授業中態度:携帯、居眠り、私語厳禁	
		20点	課題提出状況	
備考		教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。		

(実技)		科目名:図画工作Ⅱ		講師: 山田 大空	
科目概要・目標	保育内容を展開する上で必要とされる、保育における造形活動の事例を例証・傍証して取り上げ、具体的な考察を行い、造形活動の題材系列や指導・援助に必要な個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。				
教科書		花村内哲二、他『保育内容 造形表現の指導』建帛社。			
提出課題	レポート設題1	幼児の生き生きとした造形活動を促すための「指導者の役割」と「指導過程」のポイントを、制作の実体験を踏まえ具体例を交えながら述べよ。			
	学修のポイント1	領域〈表現〉における造形活動の指導について			
	学修のポイント2	幼児の成長発達と造形表現について			
	学修のポイント3	指導計画の必要性和その意義について			
	学修のポイント4	望ましい指導のあり方について			
	学修のポイント5	指導の過程(指導の段階)について			
	学修のポイント6	造形表現と材料・用具について			
期末試験		実技試験(内容は後日発表)			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション・【座学】学修ポイント作成指導			
第2回		【共同作品】空き箱の街			
第3回		【紙の造形】こいのぼり			
第4回		【座学】レポート作成指導			
第5回		【紙の造形】幾何学立体			
第6回		【木工】虫を作ろう			
第7回		【木工】木っ端の塔			
第8回		【廃材工作】太鼓			
第9回		【廃材工作】コマ			
第10回		【廃材工作】木箱の街			
第11回		【粘土】色粘土遊び			
第12回		【粘土】粘土のへび			
第13回		【粘土】粘土のカタツムリ			
第14回		【空間作品】室内の木			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	15点	実技試験		
	授業内評価	40点	作品課題		
		15点	レポート		
備考					

(講義)		科目名:特別活動の指導法		講師: 木内 正範	
科目概要・目標	◇特別活動は、生徒の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめ問題などに対する予防策的な役割を果たすなど、生徒の成長に欠かせない教育活動である。そこで、特別活動の意義や目標を確認し、その背景となる理論を理解するとともに、実践的な指導の在り方を身につける。 ◇特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、体験的な学びを重視し、学級活動・ホームルーム活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。 到達目標 1. 特別活動の目標や内容、特質と教育課程における位置づけについて理解し、教育課程全体を意識して計画や指導を行うことができるようになる。 2. 特別活動における評価・改善活動の重要性を理解し、適切な評価・改善活動を実践できるようになる。 3. 特別活動の中核となる「学級活動・ホームルーム活動」について、その特質を理解した上で、指導案(展開案)を作成し、合意形成に向けた話し合い活動を指導できるようになる。 4. 特別活動における家庭、地域等との連携のあり方について理解し、指導に活かせるようになる。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり、特別支援教育にも深く携わってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	教科書	高橋哲夫、井田延夫、他『特別活動研究 第三版』教育出版			
提出課題	レポート設題1	【小学校の特別活動の変遷と学習指導要領の改訂の要点】 特別活動の歴史からみた特質について、小学校、中学校いずれかについてその変遷を概観するとともに、平成29年改訂学習指導要領の特別活動に関する「改訂の要点」を述べよ。			
	学修のポイント1	特別活動の目標とその特質及び教育的意義(P.3～)			
	学修のポイント2	教育課程の編成・実施と特別活動の充実(P.46～55)			
	学修のポイント3	小学校学級活動における集団決定と自己決定(P.59～)			
	学修のポイント4	中学校生徒会活動の目標・内容(P.64～)			
	学修のポイント5	小学校クラブ活動の目標・内容と計画(P.69～)			
	学修のポイント6	小学校学校行事の目標・内容と留意事項(P.71～)			
期末試験		設題は、事前に発表します。			
回数		授業内容			
第1回		レポート、学修ポイント等の対応 6章 8 中・高の部活動(P.203～) ディスカッション「新しいクラスのスタートにおける担任の役割？」			
第2回		レポート等の対応 1章「特別活動とは何か」 ディスカッション「運動会の1日、半日、計画」 1 内容構成と教育的意義 2 目標と基本的な性格(P.1～14)			
第3回		3 特別活動の歴史と特質 4 他の教育内容・方法との関連(P.14～44) ディスカッション「教職員の良好な人間関係づくり対策？」			
第4回		2章「教育課程の編成・実施と特別活動の授業時数」(P.46～55) 1 教育課程の意義と3要素 2 特別活動 3 授業時数 ディスカッション「子どものSOSチェック」			
第5回		3章「内容ごとの特質」(P.56～78) ディスカッション「学校内外の安全対策？」 1 学級活動 2 児童会 3 クラブ活動 4 学校行事			
第6回		4章「特別活動の評価」(P.79～86) 1 評価の意義 2 計画と方法 3 評価結果の活用 ディスカッション「学校行事(運動会、学芸会、文化祭、体育祭、キャンプ、宿泊訓練、修学旅行など)の意義とは」			
第7回		5章「特別活動の指導」(P.87～151) ディスカッション「清掃の時間の意義と分担」			
第8回		2 指導の実際(P.151～158) 1 指導原理の基本と形態や方法の工夫 2 指導上の留意事項 ディスカッション「部活動の意義と顧問の役割とは？」			
第9回		6章「特別活動を支え、充実、発展させるために」(P.159～167) 1 生徒指導の機能と生かし方 ディスカッション「クラブ活動の意義と顧問の役割」			
第10回		2 学級経営の機能と生かし方(P.168～176) ディスカッション「児童会・委員会活動の意義と顧問の役割とは？」			
第11回		3 特別活動を推進する指導体制(P.176～179) ディスカッション「学級活動の意義と担任の役割とは？」 4 体験的な活動のねらいとその展開(P.180～186)			
第12回		5 自己の生き方の指導をどう充実するか(P.186～194) ディスカッション「教員の勤務時間と私生活」			
第13回		6 特別活動を充実する研究・研修活動(P.195～197) ディスカッション「あなたの持ち味を生かした指導？」(面接)			
第14回		7 地域社会との連携(P.198～203) ディスカッション「漢字テストの結果、納得のいかないA君の対応？」			
第15回		期末試験: 教科書等持ち込み可 60分間			
第16回		科目終了試験: 教科書等持ち込み不可 60分間			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	設題の意味を理解し、現場の実態を踏まえた私見		
	授業内評価	10点	ディスカッションでの発言内容(私見、具体性、建設的な意見等)		
		20点	授業態度(意欲、質問、意見等)		
		20点	提出物(学修ポイント・レポート)		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:児童生徒指導論		講師: 木内正範	
科目概要・目標	学校の本来的な中心任務は「教科指導」にあるが、その前提となる、あるいはそれと並行しての、生徒指導ないし生活指導の重要性も否定しえず、むしろ今日、学校においてはその意義はますます大きくなっている。ここでは、こうした事情を踏まえて、生徒指導における幾つかの場面に関して重点的に、理論と実践を概説する。主な内容は、生徒指導の本来的な目的及びガイダンスの機能の充実による生徒指導の意義、いじめや不登校・児童生徒、懲戒などの諸問題、更に教育相談、進路指導、学級経営のあり方を扱う。 本科目の目的は、学校における生徒指導の意義・理論及び方法を理解した上で、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることである。また、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を理解した上で、児童生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むために必要な知識・技能や素養を身に付けることである。さらに、個別の課題を抱える児童生徒に対する指導のあり方について、事例をとおして理解を深め、現場で役立つ理論的・実践的なセンスや能力を養うことを目指す。				
	教科書	高橋哲夫他『生徒指導の研究 第三版』教育出版			
提出課題	レポート設題1	学校教育における生徒指導の意義や役割及びガイダンス機能の充実によるこれからの生徒指導の在り方について述べよ(P.8～、P.11～)			
	学修のポイント1	ガイダンスの機能の充実を図ったこれからの生徒指導(P.11～)			
	学修のポイント2	ガイダンスの機能の充実と進路指導(P.11～、P.170～)			
	学修のポイント3	生徒指導を実践するにあたり考慮すべき基本事項(P.25～)			
	学修のポイント4	いじめ・不登校・暴力行為等の指導及びLD児・ADHD児の理解(P.1～、P.53～)			
	学修のポイント5	学級集団に適応できない児童生徒の指導と特別活動の役割(P.202～)			
	学修のポイント6	生徒指導上の諸課題と「生きる力」の育成との関連(P.13)			
期末試験		設題は、事前に提示します。			
回数		授業内容			
第1回		第4章 1 学級・HR経営の基本課題(P.178～) ディスカッション「子どもとの信頼関係をどのようにして築くか」			
第2回		2 学級・HR経営の意義・ねらい・役割(P.183～) 3 学級・HR経営の方法・進め方(P.192～) ディスカッション「子ども同士の信頼関係をどのようにして築くか」			
第3回		4 学級経営の組織と計画(P.208～) 5学級経営の評価(P.216～) ディスカッション「登下校時の対応？」			
第4回		6 学級経営の配慮事項(P.218～) ディスカッション「クラスに不登校の子がいる。どのように対応しますか」			
第5回		第1章 1 直面する学校不適応及び問題行動(P.1～) 2 生徒指導の意義・ねらいと性格 ディスカッション「子どものSOSの把握？」			
第6回		3 生徒指導の歴史と理論(P.19～) 4 生徒指導と法制(P.23～) ディスカッション「事故防止策？」			
第7回		5 生徒指導の方法・進め方(P.25～) ディスカッション「宿題の意義？」			
第8回		6 学校経営と生徒指導(P.66～) 7 学級経営と生徒指導(P.70～) 8 部活動と生徒の成長(P.72～) ディスカッション「子ども一人一人の人権意識をどのようにして育てますか」			
第9回		第2章 1 教育相談の意義とねらい(P.75～) 2 教育相談の歴史と理論 3 教育相談を支えるカウンセリングの諸理論 ディスカッション「障がいのある子の理解をどのようにして進めますか」			
第10回		4 教育相談の進め方(P.86～) 5 教育相談の技法とその実際例(P.90～) ディスカッション「男女平等の意識をどのようにして育てますか」			
第11回		6 教育相談の組織と計画(P.115～) 7 教育相談を進める上での配慮事項 8 教育相談の働きの授業への生かし方 ディスカッション「クラス全員に公平に対応する上での留意点は？」			
第12回		第3章 1 進路指導の意義と性格(P.127～) 2 進路指導の歴史と理論(P.134～) ディスカッション「時々、遅刻してくるA君への対応は？」			
第13回		3 進路指導の組織と計画(P.148～) 4 進路指導の方法と評価(P.159～)ディスカッション「保護者との信頼関係をどのように築くか」			
第14回		5 進路指導の課題と展望(P.169～) ディスカッション「よりよい職場にするための提案をしてください」			
第15回		期末試験: 教科書等持ち込み不可 60分			
第16回		科目終了試験: 教科書等持ち込み不可 60分			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	設題の意味を理解し、教育現場の実態を踏まえた私見を述べる。		
	授業内評価	10点	ディスカッションでの発言内容(具体性、現実性、建設的な意見)		
		20点	授業態度(学習意欲、質問、意見)		
		20点	提出物(学修ポイント)		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:教育心理学		講師: 内山 世璃奈	
科目概要・目標	教育心理学とは、子どもを教育していく上で必要となる知識を身につけ、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探究する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域について基礎知識が必要となってくる。本科目では、以上のような基礎的知識修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。				
教科書		櫻井茂男『たのしく学べる最新教育心理学 教職に関わるすべての人に』図書文化			
提出課題	レポート設題1	子ども一人ひとりの特性に応じた教育を行ううえで考慮すべきことは何かについて、個人の特性と教授法の相互作用という視点を含めて述べよ。			
	〈ポイント〉	発達の状況には遺伝と環境があることをふまえた上で、知能やパーソナリティ、認知特性、現在の発達状況などの個人の特性に対して、子どもの発達を最大限に促すような教師の教授法とはどのようなものかを論じる。			
	学修のポイント1	認知の発達について			
	学修のポイント2	学修に関する理論と教育現場での活用について			
	学修のポイント3	パーソナリティの発達と社会化・個性化について			
	学修のポイント4	教師・学級について			
	学修のポイント5	教育における評価について			
	学修のポイント6	心身障害の理解と支援のあり方について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/学修のポイント3 パーソナリティの発達について			
第2回		P3 知能や個人差について			
第3回		P3 パーソナリティの発達・個人化・社会化 レポート作成及び指導			
第4回		学修のポイント4 教師・学級と子どもの関係について			
第5回		P4 レポート作成及び指導			
第6回		学修のポイント2 学習に関する理論と教育現場での活用について			
第7回		P2 レポート作成及び指導			
第8回		R 発達について			
第9回		R 知能や認知といった個人特性について			
第10回		R 教授法について			
第11回		レポート作成及び指導			
第12回		学修のポイント5 教育における評価について			
第13回		学修のポイント6 心身の障害の理解			
第14回		学修のポイント6 支援について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	・レポート提出期限を守れた場合は、加点します。 ・備考に書かれているものを守れているか。		
備考		授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。			

科目名：		心理学実験(心理)・心理学基礎実験(教育)	講師：武野 全恵
科目概要・目標	本講義は、実験心理学に対する基礎的知識について解説を挟みながら、原則演習形式で展開する。実際には、実験に関連する現象や理論について説明をした後、さらなる知見を得るために実施する実験の方法、計画について説明を行う。実験方法及び実験計画について理解したうえで、実験の結果についてディスカッションを行い予測を立てたうえで、実験を実施し、その結果について結果予測を踏まえて考察を行う。このような演習構成により研究の背景、方法、結果、考察の流れを理解させ、心理学の実験の成り立ち等について理解させる。		
教科書		公益社団法人 日本心理学会認定心理士資格認定委員会編『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』金子書房 2015年 参考文献: 大山正、他『新心理学ライブラリ8 実験心理学への招待』サイエンス社 2012年	
提出課題	レポート設題1	心理学実験法についてまとめ、自分の問題意識に沿った実験のテーマや方法について考察せよ	
	レポート設題2	日常生活や社会問題に貢献する実験心理学研究について考察せよ	
	学修のポイント1	グループ比較デザインと一事例研究について考察せよ	
	学修のポイント2	実験の利点と欠点について	
	学修のポイント3	感覚・知覚の一般的特性と、形やパターンの知覚について	
	学修のポイント4	記憶における符号化と検索について(関連する実験を含めて)	
	学修のポイント5	外発的動機づけと内発的動機づけについて(関連する実験を含めて)	
	学修のポイント6	学習の正負の転移と、学習の構えについて(関連する実験を含めて)	
期末試験		詳細は後日に決定する	
回数		授業内容	
第1回		オリエンテーション・実験とは何か・実験デザインについて	
第2回			
第3回		心理学実験法について 説題1 3200字レポートの下書き作成	
第4回			
第5回		【実験1 知覚心理学】 錯覚について・結果予測・実験実施・考察	
第6回			
第7回		【実験2 社会心理学】 他者の存在による作業量について・結果予測・実験実施・考察	
第8回			
第9回		説題1 3200字レポートの清書作成 【実験3 教育心理学】動機づけについて・実験実施	
第10回			
第11回		【実験3 教育心理学】結果予測・解説・考察 実験の利点と欠点 学修のポイント2 1200字レポート作成	
第12回			
第13回		【実験4 学習心理学】 学習の転移について・実験準備・結果予測・解説・考察	
第14回			
第15回		【実験5 認知心理学】記憶の構造について・結果予測・実験実施・解説・考察 学修のポイント4 1200字レポート作成	
第16回			
第17回		【実験6 社会心理学】 パーソナリティ・スペースについて説明・結果予測・解説・考察	
第18回			
第19回		説題2 3200字レポートの下書き作成 【質問紙調査】質問紙作成についての説明	
第20回			
第21回		【質問紙調査】 構成概念の選択・質問項目の作成・論文の検索について説明	
第22回			
第23回		【質問紙調査】妥当性検討のための論文探し・結果予測 説題2 3200字レポートの清書作成	
第24回			
第25回		【質問紙調査】 質問紙作成・質問紙調査の実施	
第26回			
第27回		【質問紙調査】 データの集計・分析のやり方説明・集計・分析	
第28回			
第29回		【質問紙調査】 データ集計・分析の続き、結果についてディスカッション・考察 テストの準備とまとめ	
第30回			
第31回		期末試験	
第32回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	50点	論述式。持ち込み可。
	授業内評価	20点	レポートの提出状況、授業態度などを踏まえて評価を行う。
備考		グループ単位でディスカッションを行ったり、実験を行ったりする場面が多く、周りの人との協力が必要となる授業です。そのため、メンバーに迷惑がかからないようできるだけ出席するように心がけてください。また、実験の進捗によってはシラバス内容が変更となる可能性があります。	

教育学科

教育学認定心理士コース

3年生

(講義)		科目名:教養演習Ⅰ(進路ガイダンス含む)		講師:山田哲史(HR:内山世璃奈)	
科目概要・目標	社会福祉士、精神保健福祉士、社会福祉主事任用資格、児童指導員任用資格、認定心理士、保育士資格、幼稚園教諭免許状、小学校教諭免許状など、大学卒業時に本科目の受講者はそれぞれの学科やコース応じた各種の資格を取得する。ここでは、広くそれぞれの資格の基本的な位置づけや活躍の機会について紹介するとともに、適宜、就職試験の受験を意識した試験問題の演習も行う。このようにして、近い将来、各自がどんなところで働くのかということについてのイメージを具体的に描くことができるようにするとともに、就職試験の際に出題される可能性のある問題を想定して解析し、得点力を高める一助としたい。				
	教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。		
	期末試験		内容は後日発表。		
	回数		授業内容		
	第1回		オリエンテーション		
	第2回		インターンシップ(1day 仕事体験)について説明		
	第3回		資格・就活(採用試験)関連①		
	第4回		マイナビ就活講座		
	第5回		資格・就活(採用試験)関連①		
	第6回		資格・就活(採用試験)関連②		
	第7回		資格・就活(採用試験)関連③		
	第8回		卒業生(精神保健福祉士)による体験談		
	第9回		児童養護施設などについての紹介		
	第10回		資格・就活(採用試験)関連⑤		
	第11回		資格・就活(採用試験)関連⑥		
	第12回		資格・就活(採用試験)関連⑦		
第13回		資格・就活(採用試験)関連⑧			
第14回		インターンシップに関する資料作成			
第15回		インターンシップに関する発表会①			
第16回		インターンシップに関する発表会②			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

2025年度 前期					
(実技)		科目名:音楽実技ⅡB		講師: 花井 淑	
科目概要・目標	「音楽」で習得した音楽理論(楽典、和声法)や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる 保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。具体的には、歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い(ピアノ伴奏をしながら歌う)等の技術を身につけるとともに、子どもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。				
教科書	「バイエルピアノ教則本」、「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」、「こどものうた大百科」、配布楽譜、等				
期末試験	実技試験				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス(楽器の扱い方、教室でのマナー、授業の進め方、進度調べ、等)。 ピアノ実技。				
第2回					
第3回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い①				
第4回					
第5回	〃 〃				
第6回					
第7回	〃 〃				
第8回					
第9回	〔中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い①〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第10回					
第11回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い②				
第12回					
第13回	〃 〃				
第14回					
第15回	〃 〃				
第16回					
第17回	〔 中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い②〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第18回					
第19回	〃 〃				
第20回					
第21回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い③				
第22回					
第23回	〃 〃				
第24回					
第25回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い④				
第26回					
第27回	〃 〃				
第28回					
第29回	まとめ・発表				
第30回					
第31回	〔期末試験: バイエル 70～106 から1曲、弾き歌い③④〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲				
第32回					
単位取得にあたり	上記のバイエル番号は、最低ラインで、終了した学生はさらに上を目指すように。				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。出席不足の場合は再履修とする。		
	期末試験	10点	課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
	授業内評価	20点	中間テスト: 10点× 2回 課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
		16点	バイエル: 4点× 4 曲		
		20点	弾き歌い: 5 点× 4 曲 ただし正伴奏で弾けること (和音伴奏の場合は 5 曲)		
		4点	発表: 未発表のもの、ただし、試験で弾いたものは可。		
		減点	忘れ物: 減点とする (1 回につき 1 点減点)		
備考	弾き歌いは、教科書、または他楽譜より 4 曲 (不合格のもの) 以上を選択				

2025年度 前期

(講義)		科目名:道徳の指導法		講師：山田哲史	
科目概要・目標	道徳は個人の内面の形成に直接的に関わるために、どのような道徳教育をどのようなかたちで学校教育の中で行うかについては、多くの議論がなされてきており、実際にめまぐるしい歴史的変遷をたどってきた。特に新学習指導要領では特別の教科「道徳」となり、道徳教育に対する理解はこれまで以上に重要性が高まってきている。このような道徳教育の理解に向けて、道徳教育の改訂の経緯、道徳教育の基本的なあり方、目標と内容、指導計画、道徳の時間の指導、全教育活動における指導、家庭・地域社会との連携、道徳教育における児童理解と評価の意義について学修する。そして道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学修し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。				
教科書		柳沼良太『道徳の理論と指導法「考え議論する道徳」でよりよく生きる力を育む』図書文化、2017年			
レポート	設題 1	道徳の時間において、主題をどのように設定し、どのような授業を行っていくかという指導の構想			
	設題 2	*****			
提出課題	学修のポイント1	道徳教育における「特別の教科 道徳」の果たすべき役割について			
	学修のポイント2	道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育について			
	学修のポイント3	「道徳の時間」が特設されることになった経緯について			
	学修のポイント4	道徳教育の計画について			
	学修のポイント5	道徳教材の活用と道徳科における学習法について			
	学修のポイント6	教師に求められる道徳的指導力と道徳の評価について			
期末試験		(設題は授業時に発表します)			
授業計画	回数	授業内容			
	第1回	学習指導要領における「特別の教科 道徳」の位置づけについて			
	第2回	「特別の教科 道徳」の果たすべき役割について			
	第3回	道徳教育の計画について			
	第4回	道徳教材の活用と道徳科における学習法について			
	第5回	道徳教育のための指導の構想について(①指導案)			
	第6回	道徳教育のための指導の構想について(②留意点)			
	第7回	道徳教育のための指導の構想について(③教材の内容とその評価)			
	第8回	道徳性の発達理論の特質について			
	第9回	道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育について			
	第10回	道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育について			
	第11回	教師に求められる道徳的指導力と道徳の評価について			
	第12回	修身科の復活をめぐる論議と道徳教育について			
	第13回	道徳教育の全面主義について			
	第14回	「道徳の時間」が特設されることになった経緯について			
	第15回	期末試験実施			
	第16回	科目終了試験実施			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	設題の趣旨に沿って独自性のある記述を心がけること。		
	授業内評価	10点	授業態度		
		20点	課題提出状況		
備考		授業には集中力を持続しながら積極的に参加してください。私語、居眠りは厳禁。携帯電話の電源は切っておくこと。授業態度が悪く、指導後も改善が認められないと判断された場合には、学習の状況の如何にかかわらず不合格とします。			

2025年度前期

(講義)		科目名:教育実習指導(初等)		講師:奥村一成	
科目概要・目標	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園および小学校で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。 本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解(教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般)、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。 また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園および小学校教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。 学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。 (実務を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	参考文献		【教科書】 「教育実習(初等)の手引き」 【参考資料】 ①平成29年告示小学校学習指導要領対応「小学校教育実習ガイド」 ②文科省「小学校学習指導要領解説」		
	期末試験		授業の中で指示する。		
	回数		授業内容		
	第1回		講義概要、教育実習の意味 実習に向けての自己課題		
第2回		子どもの理解と援助・支援技術の理解Ⅰ 教育環境と子どもの実態			
第3回		子どもの理解と援助・支援技術の理解Ⅱ 教育環境と子どもの実態			
第4回		実習に必要な心構え			
第5回		指導案、記入に必要な事項			
第6回		子どもの活動と教師の援助、支援			
第7回		指導案一枚の中の関連			
第8回		指導案の作成と分析Ⅰ 題材、活動内容等の記入			
第9回		指導案の作成と分析Ⅱ 資料の収集、模擬授業の内容精査			
第10回		指導案の作成と分析Ⅲ 援助、支援などの工夫			
第11回		模擬授業の実際 その1			
第12回		模擬授業の実際 その2			
第13回		子どもの理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その1			
第14回		子どもの理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その2			
第15回		目指す授業と自己課題の再設定			
第16回		まとめ 期末試験			
成績評価	出席率		30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験		30点	自分の課題意識が持てたかどうか	
	授業内評価		20点	授業態度	
			20点	提出物	
備考		実習を前にした大切な授業であるという意識と緊張感をもち、積極的な態度で学修して欲しいと願っています。			

科目名:		心理的アセスメント/心理検査法		講師: 森奈祐	
科目概要・目標	事例理解のために、性格テストや知能検査など各種の心理検査がどのように役に立つのかを知り、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)、適切な記録及び報告について学修し、各種の心理検査の基本となる考え方について理解を深める。				
教科書		渡部洋『心理検査法入門』福村出版			
提出課題	【設題1】以下の6種の心理検査の中から、好きなものを1種選択し、選択した心理検査について、特徴を述べよ。 【設題2】以下の6種の心理検査の中から、【設題1】で選択したもの以外で好きなものを1種選択し、選択した心理検査について、その特徴を述べよ。(心理のみ) ＜心理検査＞ 「ウェクスラー知能検査」、「Y-G性格検査」、「テイラー不安検査」、「VPI職業興味検査」、「新版K式発達検査」、「ロールシャッハテスト」				
	学修のポイント1	信頼性について			
	学修のポイント2	妥当性について			
	学修のポイント3	個別式検査の長所と短所について			
	学修のポイント4	質問紙法の長所と短所について			
	学修のポイント5	投影法の長所と短所について			
	学修のポイント6	作業検査法の長所と短所について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		心理検査の歴史について			
第2回		信頼性について			
第3回		妥当性について			
第4回		心理検査データの要約			
第5回		得点の解釈			
第6回		ウェクスラー知能検査について①			
第7回		ウェクスラー知能検査について②			
第8回		因子分析、項目反応理論について			
第9回		ロールシャッハテストについて①			
第10回		ロールシャッハテストについて②			
第11回		YG性格検査について			
第12回		テイラー不安検査について			
第13回		VPI職業興味検査について			
第14回		新版K式発達検査について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度、グループワーク等への参加、授業中の発言等・積極性、提出物期限を評価する。		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(講義)		科目名:教職教養講座Ⅱ(社会)		講師:山田哲史	
科目概要・目標	近い将来、就職試験に臨むことを前提にして、民間企業で出題される一般教養(常識)をはじめ、公務員試験や教員採用試験で出題される一般教養の試験への対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めていてはとても試験には間に合わないことは明白である。したがって時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていくことが大切である。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		試験対策問題演習Ⅰ			
第3回		試験対策問題演習Ⅱ			
第4回		試験対策問題演習Ⅲ			
第5回		試験対策問題演習Ⅳ			
第6回		試験対策問題演習Ⅴ			
第7回		試験対策問題演習Ⅵ			
第8回		試験対策問題演習Ⅶ			
第9回		試験対策問題演習Ⅷ			
第10回		試験対策問題演習Ⅸ			
第11回		試験対策問題演習Ⅹ			
第12回		試験対策問題演習Ⅺ			
第13回		試験対策問題演習Ⅻ			
第14回		試験対策問題演習(総復習A)			
第15回		試験対策問題演習(総復習B)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:教養基礎講座		講師:室山俊浩・山田哲史	
科目概要・目標	近い将来、教員採用試験で出題される一般教養の試験対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めていてはとても試験には間に合わないことは明白である。したがって時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていきたい。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		社会科学・人文科学①			
第3回		自然科学①			
第4回		社会科学・人文科学②			
第5回		自然科学②			
第6回		社会科学・人文科学③			
第7回		自然科学③			
第8回		社会科学・人文科学④			
第9回		自然科学④			
第10回		社会科学・人文科学⑤			
第11回		自然科学⑤			
第12回		社会科学・人文科学⑥			
第13回		自然科学⑥			
第14回		社会科学・人文科学⑦			
第15回		自然科学⑦			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(実技)		科目名:情報処理基礎演習Ⅲ		講師:高橋直子	
科目概要・目標	パワーポイントの使い方を学習する。 特に、図を用いて表現することを学習する。				
教科書		なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)			
期末試験		実技試験(パワーポイントで1つの資料を作成し保存する。)			
回数		授業内容			
第1回		パワーポイントの基本			
第2回		いろいろなスライドの作成			
第3回		効果(画面切り替え、アニメーションなど)の利用			
第4回		リンク機能の利用			
第5回		グラフのスライドの作成			
第6回		SmartArt機能を使ったスライドの作成			
第7回		図解のパターンを理解するスライドの作成			
第8回		スライドマスターの利用			
第9回		図解の復習			
第10回		複雑な図解のスライドの作成			
第11回		自由にアレンジしたスライドの作成			
第12回		話の流れを考える			
第13回		復習			
第14回		復習			
第15回		復習(期末試験対策)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度		
備考		飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止			

(講義)		科目名:家庭		講師: 浅井 恭子	
科目概要・目標		小学校における「家庭科」は、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活に焦点を当て、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識を身に付け、家庭の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てることを目標としている。本科目では、小学校の「家庭科」の授業を展開する上で必要となる、学習指導の要点や留意点、題材構成のあり方などについて学修する。			
教科書		文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編』東洋館出版社			
提出課題	レポート設題 1	家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開について述べよ。			
	学修のポイント1	A「家族・家庭生活」に関する内容と指導上の留意点について			
	学修のポイント2	B「衣食住の生活」(1)食事の役割(2)調理の基礎(3)栄養を考えた食事の内容と指導上の留意点について			
	学修のポイント3	B「衣食住の生活」(4)衣服の着用と手入れ(5)生活を豊かにするための布を用いた製作の内容と指導上の留意点について			
	学修のポイント4	C「消費生活・環境」の内容と指導上の留意点について			
	学修のポイント5	実習指導を行う際に配慮すべき点について			
	学修のポイント6	わが国の伝統的食文化である「米飯及びみそ汁の調理」の指導上の留意点について			
期末試験		家庭科で「食育」に取り組む際のポイントについて考察しなさい。			
回数		授業内容			
第1回		シラバスの説明及び授業に関する諸注意、教材確認、第1章読み合わせ			
第2回		家族・家庭生活に関する内容と指導上の留意点について			
第3回		同上(教員採用試験過去問含む)			
第4回		「衣食住の生活」(1)(2)(3)の内容と指導上の留意点について			
第5回		同上(教員採用試験過去問含む)			
第6回		家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開について			
第7回		同上(目標及び学習内容)			
第8回		同上(学習内容A～Cの理解し設題の内容を確認する)			
第9回		同上(設題のポイントを確認する)			
第10回		実習指導を行う際に配慮すべき点について1			
第11回		同上(教員採用試験過去問含む)2			
第12回		学習のポイント2.4.6について学習する。(授業内容のまとめ)			
第13回		実技指導(被服分野)基礎縫いとミシンについて			
第14回		実技指導(食物分野)鍋での炊飯・だしの取り方			
第15回		期末試験(持ち込み不可)			
第16回		科目終了試験(持ち込み不可)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み不可(1000字以上)		
	授業内評価	10点	提出物(設題・学習のポイントなどの提出期限重視)		
		10点	実習態度(実習作品)		
20点		授業態度(授業に取り組む姿勢)			
備考		①携帯電話等の使用禁止 ②私語は慎む ③居眠り禁止 ④飲食は禁止 ⑤配布資料は大切にしましょう。			

(講義)		科目名:体育科指導法		講師:山口榮三	
科目概要・目標		体育を指導する上での基本的な知識・技能を身につけ、各領域の教材づくりと指導のポイントについて学修する。スクーリングは実技中心の授業であり、体育の模擬授業形式で授業を進める。部分的には講義やディスカッション形式で授業を行う。			
教科書		高橋建夫『新版 体育科教育学入門』大修館書店 小谷川元一『教師と親の「共育」で防ぐ いじめ・学級崩			
提出課題	レポート設題1	体育学修のポイントを整理し、具体的事例をもとにより良い体育授業について述べよ。			
		(ポイント)次の点を踏まえて述べること。 ①「わかる」「できる」「かかわる」が両立する体育授業とは何か把握する。 ②体育の特性を整理し、人間関係構築のために体育科の果たす役割を理解する。 ③子どもが伸びる具体的な教材を示し、授業のポイントを整理する。			
	学修のポイント1	体育とは子どもたちにどのような影響を与える教科なのか			
	学修のポイント2	人間関係を構築する体育学習とはどのようなものか			
	学修のポイント3	体育の教材づくりについて、具体的な事例をもとに述べよ。			
	学修のポイント4	体育科学習指導案作成上の留意点について			
	学修のポイント5	いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について			
	学修のポイント6	体育の授業場面において教師が特に配慮すべきことについて			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		体育科の特性及び目標整理し、体育科とはどのような教科なのかについて理解を深める。			
第2回		体育の学習主体の子どもの理解			
第3回		体育の領域と単元構成について教科書をもとに整理する。			
第4回		典型教材を作成する。(資料等を参考にしながら、児童に学習させたい教材を考案する。			
第5回		人間関係を構築する体育学習について教科書等をもとに整理する。(希薄な人間関係の社会背景についても考察する)			
第6回		いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について、参考書の具体的事例などをもとに整理する。			
第7回		体育学習において教師が特に配慮すべきことについて、自身の経験をもとにまとめる。(安全面の配慮は必ずおさえる)			
第8回		体育科学習指導案の作成のポイントについて参考書の具体事例などをもとに整理する。			
第9回		体育学習指導案作成「体づくり運動系教材」			
第10回		体育学習指導案作成「器械運動系教材」			
第11回		体育学習指導案作成「ボール運動系教材」			
第12回		体育学習指導案作成「保健学習系教材」			
第13回		体育学習指導案作成「陸上運動系教材」			
第14回		体育学習指導案作成(「水泳系教材」「表現運動系教材」から一つを選んで)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	20点	レポート:提出期限までに作成できたか、自分の言葉でまとめられているかで判断します。		
		10点	実技:すすんで授業に参加しているか、体を動かしての行動等で判断します。		
10点		授業態度:本学ルール、マナーにそって、意欲的に授業を受けていたかどうかで判断します。			
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。			

(実技)	科目名:レクリエーションワーク	講師:山口榮三
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。	
教科書	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをおとした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業 *②③の資料は山口榮三が用意します。	
期末試験	後日指示	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション・レクリエーション支援とは/現場実習について 実技体験	
第2回	レクリエーション支援の展開方法(1) 個別及び集団レクリエーション支援方法とその実践	
第3回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(1)	
第4回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(2)	
第5回	レクリエーション支援実習1	
第6回	レクリエーション支援実習2	
第7回	レクリエーション支援実習3	
第8回	レクリエーション支援実習4	
第9回	レクリエーション支援実習5	
第10回	レクリエーション支援実習6	
第11回	レクリエーション支援実習7	
第12回	レクリエーション支援実習8	
第13回	レクリエーション支援実習9	
第14回	レクリエーション支援実習10	
第15回	まとめ	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持ち込み:可 論述式
	授業内評価	30点 支援計画案の提出及びその内容で評価します。
		10点 本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	

(講義)		科目名:専門実技Ⅰ(教科実技)		講師:松村久美子	
科目概要・目標	教育時事や現代的な教育課題を捉え、既存の教育方法から学び、教育法規や学習要領などの抑えつつ、模倣に陥らない確かで創造的な実践力の育成を目指す。単元や本時の目標・課題づくり、発問・展開・教材づくり・板書計画、目標達成のために必要な用具や教材などを練り、模擬授業をし、省察・授業改善を重ね、教育実習や教職に必要な資質能力を実践を通して向上させていく。				
	教科書	配布プリント			
期末試験	自身の授業力・実践力への気づきを具体的に書き、教師の資質能力を培うためにこれからすべきことを具体的に述べよ。				
回数	授業内容				
第1回	算数科	事前研究会①	教育時事①		
第2回		事前研究会②	教育時事②		
第3回	模擬授業①				
第4回	模擬授業②				
第5回	総合的な学習(探究) 課題設定			教職教養①	
第6回	情報収集			教職教養②	
第7回	整理・分析				
第8回	まとめ 表現				
第9回	模擬授業①				
第10回	模擬授業②				
第11回	国語科	物語文	課題づくり	DVD	教育実習①
第12回	音読 初発の感想				教育実習②
第13回	教材文の読み込み 書き込み				教育実習③
第14回	主発問づくり				教育実習④
第15回	国語科・学年の目標 学習内容 授業構想 教育実習⑤				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	15点	授業への構え 授業態度		
		10点	模擬授業 指導計画		
		15点	省察ノート 授業改善		
備考	実践力を実技を通して高めつつ、計画ありきではなく受講生の実態に応じます。				

(講義)		科目名:特別ニーズ教育論		講師: 花木元司	
科目概要・目標	障害の有無にかかわらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、特別支援学校で障害児の教育にあたってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		【教科書】玉村公二彦、他『新版 キーワードブック 特別支援教育』クリエイツかもがわ。			
提出課題	レポート設題1	現代の学校は、発達障害・母国語・貧困などの問題への様々な教育的ニーズに対応しなければならない。現在の学校教育が抱える問題について、インクルーシブ教育のつ視点から整理し、その解決についてあなたの考える方策を述べよ。			
	学修のポイント1	インクルーシブ教育の理念について			
	学修のポイント2	特別支援教育とインクルーシブ教育について			
	学修のポイント3	障害の理解について			
	学修のポイント4	特別支援学校の学習指導要領と教育課程について			
	学修のポイント5	障害児の教育課程について			
	学修のポイント6	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて			
期末試験		講義の中で発表する。			
回数		授業内容			
第1回		インクルーシブ教育とは ポイント①			
第2回		インクルーシブ教育の理念について ポイント①			
第3回		我が国の障害児教育 特別支援教育の歴史 ポイント②			
第4回		現在の特別支援教育の現状と課題 ポイント②			
第5回		特別支援教育とインクルーシブ教育について ポイント②			
第6回		特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④			
第7回		特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④			
第8回		障害の理解について 視覚障害・聴覚障害 ポイント③			
第9回		障害の理解について 知的障害・肢体不自由・病弱 ポイント③			
第10回		障害の理解について 重度重複障害児 ポイント③			
第11回		障害の理解について 発達障害:学習障害(読み書き障害)・ADHD・自閉症(ASD) ポイント③			
第12回		障害児の教育課程について 作業学習 ポイント⑤			
第13回		障害児の教育課程について 自立活動 ポイント⑤			
第14回		特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり ポイント⑥			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	的確に課題の意図を捉えているか		
	授業内評価	20点	積極的に授業に臨んだか		
		20点	提出物(期限内に提出できたか)		
備考					

(講義)		科目名： 心理学研究法		講師： 内山 世璃奈	
科目概要・目標	心理学の主要な内容とも言える感覚・知覚・学習・認知・人格・社会について、実験・調査などの実証的研究法を学ぶ。一般的に心理学の研究では何のために研究するのか研究の目的をはっきりさせ、その方法を考え、その結果を分析していく。本科目では、それらの技能と共に、データを用いた実証的な思考方法を身につけさせていくことが主要な目的である。また、結果の分析にあたっては、統計学の知識、コンピューターリテラシーも必要であり、その習得も併せてめざす。さらに、それらの研究法に内在する問題点も検討し、心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、データを用いた実証的な思考方法、研究における倫理について理解する。				
教科書		高橋順一、他『人間科学研究ハンドブック』ナカニシヤ出版			
提出課題	レポート設題1	心理学の研究法のうち、面接法と質問紙法調査法について述べよ。			
	レポート設題2	心理学の研究法のうち、観察法と実験法について述べよ。			
	学修のポイント1	「研究とはなにか」について			
	学修のポイント2	データ収集と情報源について			
	学修のポイント3	サンプリングについて			
	学修のポイント4	人間科学における研究倫理について			
	学修のポイント5	実験論文の構成について			
	学修のポイント6	心理学で用いる尺度について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/P1 研究について			
第2回		P1 研究について P3 サンプリングについて			
第3回		P2 データ収集と情報源について			
第4回		P2 データ収集と情報源について			
第5回		R2 観察法について			
第6回		R2 観察法について			
第7回		R2 実験法について			
第8回		P6 尺度について			
第9回		R1 面接法について			
第10回		R1 質問紙法について			
第11回		R1 面接法・質問紙法について			
第12回		P4 研究倫理について			
第13回		P5 実験論文の構成について			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	・レポート提出期限を守れた場合は、加点します。 ・備考に書かれているものを守れているか。		
備考		授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。			

2025年度 前期

(講義)		科目名:教養基礎演習Ⅱ		講師: 室山俊浩	
科目概要・目標		本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。			
教科書		東京アカデミー『セサミノート②一般教養』			
提出課題	設題 1	環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。			
	設題 2				
	学修のポイント1	次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事か簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)			
	学修のポイント2	東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。			
	学修のポイント3	AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。			
	学修のポイント4	日本の四季の天気の特徴を説明せよ。			
	学修のポイント5	高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s ² とする。			
学修のポイント6	「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なものを1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。				
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / 環境問題について			
第2回		環境保護のための取り組みについて			
第3回		環境問題にどのように取り組むべきか			
第4回		学修のポイント1			
第5回		学修のポイント2			
第6回		学修のポイント3			
第7回		学修のポイント4			
第8回		学修のポイント5			
第9回		学修のポイント6			
第10回		問題演習			
第11回		問題演習			
第12回		問題演習			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	持ち込み		
	授業内評価	30点	提出物・授業内課題など		
備考		提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。			

(講義)		科目名:心理学的支援法(心理療法)/心理療法概説		講師: 平石太一	
科目概要・目標	心理療法の理論は、40を越えるものがあり、変転進歩しつつある領域である。その中でも広く実践されているものとして、精神分析的療法、クライエント中心療法、行動療法、認知行動療法、家族療法、芸術療法、森田療法、内観療法、集団心理療法などの考え方を学ぶ。それぞれの理論や定石を知ること、目の前の個人に即応するよう工夫し、クライエントの資質や周りの資源の力を生かせるような援助を可能にするために、それぞれのアプローチに関する効用と限界に関する理解を深める。事例論文を読み、ディスカッションを通して実践的な理解を図る。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。				
教科書		『基礎から学ぶ心理療法』 矢澤美香子編 ナカニシヤ出版			
提出課題	レポート設題1	各種の心理療法の中から、3つの心理療法を取り上げて、それぞれについて論述せよ。 〈ポイント〉それぞれの技法について、治療のねらい、その対象者、治療法などについて述べ、その効用と限界について考察する。			
	学修のポイント1	心理療法の構造について			
	学修のポイント2	精神分析の治療について			
	学修のポイント3	カウンセラーの3条件(中核3条件について)			
	学修のポイント4	認知療法における「認知」について			
	学修のポイント5	日本で生まれた心理療法について			
	学修のポイント6	家族療法の考え方について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 心理療法とは何か			
第2回		精神分析			
第3回		クライエント中心療法			
第4回		行動療法			
第5回		認知行動療法			
第6回		日本で生まれた心理療法			
第7回		家族療法			
第8回		芸術療法1			
第9回		芸術療法2			
第10回		集団心理療法			
第11回		心の援助を考える1			
第12回		心の援助を考える2			
第13回		心の援助を考える3			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度、レポート内容等を評価対象とする。		
備考		他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。			

(講義)		科目名:生 活		講師: 小河直子	
科目概要・目標	幼児期から児童期へのスムーズな活動の移行を意図して、教科「生活」が設定された。「生活」では、幼児からの連続を踏まえて、具体的な活動や体験を通して自分と身近な環境とのかかわりを大切にしながら実感的に学んで知的な気づきを深めたり、自分自身や自分の生活について考えたり、基本的な生活習慣を身につけたりする。したがって、本科目では、「生活」の趣旨や目標および内容について学ぶ際に、幼児保育との関連を重視する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校で教員として学校教育にあたった講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編			
提出課題	レポート設題1	幼児保育の基本と、教科「生活」の目標や内容との関連や連続について具体的に考察して述べよ。 ポイント「生活」は子どもの実感を伴った気づきを重視する。したがって、子どもの身近な環境との情緒的なかかわりが学びの第一歩となる。子どもの心と頭と身体活動が一体となった学びの姿を見出すようにすること。			
	学修のポイント1	教科「生活」の内容と特色について			
	学修のポイント2	目標や内容が2学年まとめて示されることについて			
	学修のポイント3	幼児の集団保育と「生活」の基本的な生活習慣を重視する。事の関連について			
	学修のポイント4	幼児の「探検遊び」と「生活」の学習との関連について			
	学修のポイント5	「生活」と他教科等の学習との関連について			
	学修のポイント6	「生活」の特質と気づきの質を高める事の関連について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション・シラバス・レポートの課題について理解する。生活の概要を知る			
第2回		生活の内容と特色について教科目標に触れながら理解する。学修ポイント1			
第3回		幼児教育と生活科の共通する点を「生活」の内容と特質を踏まえて考察する			
第4回		生活科の三層構成について理解する。スタートカリキュラム学修ポイント2			
第5回		生活科の内容と子どもの生活圏に関わらせる意義を理解する。アサガオの種を観察する			
第6回		生活科の内容学校・家庭・地域について子どもの生活環境との関連を探る。			
第7回		ごっこ遊びと生活の関連について学修ポイント4			
第8回		生活科の評価について知る。スタートカリキュラムの役割について			
第9回		学校探検の役割と意義・自分の成長の成長について学修ポイント3			
第10回		幼児の「ごっこ遊び」と「生活」の学習との関連について学修ポイント5			
第11回		生活科の教科書の使い方を知る。自分の成長を考える学修ポイント6			
第12回		生活科の授業の実際について知る。(教師の授業を見て)			
第13回		生活科と他教科等のつながりについて考える。タブレット端末について使用状況を知る			
第14回		まとめとテスト対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	課題意識を持ち分かりやすく論述できたか。		
	授業内評価	20点	レポート・学修ポイントの提出期限を守れたか。		
		20点	積極的に授業に参加できたか		
備考		はさみ・のりを持ってくる。振り返りカードを毎時書く、14回にまとめる。			